

傍聴席

議会に物申す

仙北市田沢湖卒田 草薨俊一

仙 北市誕生10年、定例議会の数40回。私はその議会を傍聴してきた者です。だから物申す。機微しい一言かもしれないが、議員としてなすべき責任があるはずである。特に議会に提出される案件に対して、市民の代弁者として、その討論と討議に

性のある良い市がつくられるのである。これ程乱れている現状ではどうする。語れる身分ではないが、議員としての責任の重さとその立場を再認識して頂きたい。行政の在り方を最終決定するのは、議員による討議と審議の議決によるものであるはずだ。仙北市議会には「山積している諸問題」に速やかに、かつ真摯に対処して下さる様心から願うものである。

控室

庁舎問題が 引きずるもの

新 年あけましておめでとうございます。市民の皆様には

健やかな気持ちで新しい年をお迎えの事とお喜び申し上げます。昨年は市政にとって怒涛の様な一年でした。市民の皆様には大変な心配と不安をおかけしました。本市も合併10周年後初めての新年を迎

えましたが、今年も統合庁舎建設問題を中心に様々な問題が目白押し状況です。現在の分庁舎方式では、激しく市民人口が減少し続ける中で、いずれ職員削減が行き詰まり、将来、財政的に立ち行かなくなる恐れがあります。合併特例債の充当できる期限も刻々と迫りつつあり、この機会を逃せば庁舎建設は特殊なケースを除いて補助金制度が無く、予測される将来の厳しい財政状況下で、一般財源のみでの建設は不可能に近くなると推察されます。こうした将来展望の中、庁舎建設特別委員会の結論は本年に持ち越されました。合併特例債の有利さと、将来の行財政改革を十分に考慮すれば10億

20億の建設費の差はそれ程大きな問題にならない筈ですが、実際は議員それぞれの地域感情や思惑が交錯して、もはや十分な検証をする時間も残されていない現況下にもかかわらず、様々な対案が出て、収練のつかない議論に終わるかに見えました。ここに来てダークホース的に、角館駅前案が台頭してきました。今後の成り行きは読めませんが、今、統合庁舎建設が実現しなければ今後、行財政改革が一層困難になり、更なる合併が待っているかも知れません。いずれにしてもこの建設の成否が市政の帰趨を占う重大な試金石になると思われてなりません。

(阿部則比古記)

人事案件

○仙北市教育委員会委員

坂本 佐穂 氏

(仙北市角館町水ノ目沢81番地1)

元仙北市議会議員の藤原 助一 氏 「旭日雙光章」受賞される

秋の叙勲で元仙北市議会議員の藤原助一氏が、旭日雙光章を受賞されました。(平成5年に田沢湖町議会議員に当選。平成17年から26年まで仙北市議会議員として、地域貢献された功績による。) おめでとうございます。



秋の叙勲

今こそ市民と議会と市当局が一体となつて、智慧を出し、汗を流して「ひとり一人が輝くまちづくり」に真剣に取り組んでいく事が、信頼回復への第一歩となると胆に銘じて前進して参りたい。

議会だよりは、市民の皆さんにわかりやすい紙面を届けるように委員一同頑張つて参ります。今年もよろしくお願いたします。

(熊谷一夫記)

編集後記

今年のお正月は、議会も市役所も例年になく多忙であった。それというのも12月定例会より、地方創生・庁舎建設に加え「随意契約不正事務処理に関する調査特別委員会」が設置され、三つの委員会がフル回転で審議・議論を展開したからである。更に、広報委員には原稿の締切りがあった。議会事務局、関係職員も、各委員会の要望や調査、交渉等を年末・年始にかけて奮闘してくれた事に心から感謝する次第である。

庁舎に関しては、合併特例債の期限が迫り、地方創生は年度末まで「仙北市版総合戦略」策定の必要があり、随意契約の不正調査にいたつては、「職員のコンプライアンス教育を一からやり直す必要がある」との委員会の意見である。

財政状況も年々厳しくなる中で、仙北市の次の10年の未来に何を残すか。未来を担う若者達に大きな負担を背負わせるのか。市が生き残れる将来の方向性をどのように示していくのか。大きな決断の時を迎えている。